

インターネット調査における選択肢の縦・横表示効果

調査方法： インターネット調査
 調査対象： アダムスマニター登録者の方々
 調査時期： 2007年11月12日～11月20日
 調査内容： 政治や企業に対する考え方（6問）

この調査では52,452件のアダムスマニター登録者の方々から、合計で10,924サンプルの有効回答を回収したが、このレポートではその10,924サンプルの一部である2,770サンプルの回答結果から選択肢表示の順序効果を分析するものである。それぞれの選択肢表示方式に対して、下記のような6種類の質問で回答を得た。

- 質問1 今の内閣が地域格差の問題を優先的に解決することにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
 質問2 今の内閣が年金問題を優先的に解決することにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
 質問3 企業が事業で得た利益を使って、環境保全などの事業以外の活動を行うことにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
 質問4 企業が株主への利益還元を最優先することにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
 質問5 今の政治家は世論に迎合しすぎている、という意見にどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
 質問6 経済状況の良し悪しはその時の政治によって決まる、という意見にどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）

対象2,770サンプルに対して、上記6種類の同じ質問を、異なる4種類の選択肢表示方式で聞いている。その4種類の選択肢表示方式と各回収サンプル数は下記の通り。

縦配列、昇順表示 (n=769)

- とても強く賛成
- 賛成
- やや賛成
- どちらともいえない
- やや反対
- 反対
- とても強く反対

横配列、昇順表示 (n=691)

- | | | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| とても
強く
賛成 | 賛成 | やや
賛成 | どちらとも
いえない | やや
反対 | 反対 | とても
強く
反対 |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

縦配列、降順表示 (n=654)

- とても強く反対
- 反対
- やや反対
- どちらともいえない
- やや賛成
- 賛成
- とても強く賛成

横配列、降順表示 (n=656)

- | | | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| とても
強く
反対 | 反対 | やや
反対 | どちらとも
いえない | やや
賛成 | 賛成 | とても
強く
賛成 |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

上記2種類の昇順表示の方式で得た回答結果の比較と、2種類の降順表示の方式で得た回答結果の比較を行うことによって、選択肢表示方式が縦配列の場合と横配列の場合で回答結果に差異が生じるのかどうかを調べた。比較の方法としては、それぞれ肯定的な意味を持つ選択肢トップ3の割合を比較することとした。縦配列で得た回答のトップ3の割合から横配列で得た回答のトップ3の割合を差し引いた結果を下記に示す。

昇順表示の場合

縦配列のトップ3の割合から横配列トップ3の割合を差し引いた結果

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6
0.2	-1.7	-3.6	-4.9	0.7	-4.7

降順表示の場合

縦配列のトップ3の割合から横配列トップ3の割合を差し引いた結果

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6
-0.5	0.5	-0.6	-2.5	0.5	0.1

- 上記の結果比較からわかるように、昇順表示の場合でも降順表示の場合でも回答結果に顕著な違いは見られない。縦配列で得たトップ3の割合から横配列で得たトップ3の割合を差し引いた結果で統計的に顕著なものは全く見られなかった。(カイ2乗検定 $p < 0.05$ となるものは全く見られなかった。)
- 4種類の各表示方式に回答した対象者サンプルの性・年代の構成は下記の通りとなっており、それぞれほぼ均等な性・年代構成となっているので、これらの属性が調査結果に影響を与えた可能性はほとんどないと考えて良いと思われる。

		縦配列、昇順表示 n=769		横配列、降順表示 n=656		縦配列、降順表示 n=691		横配列、昇順表示 n=654	
		n	%	n	%	n	%	n	%
男性	20歳未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2
	20-29歳	55	7.2	39	5.9	34	4.9	35	5.4
	30-39歳	98	12.7	80	12.2	83	12.0	83	12.7
	40-49歳	88	11.4	87	13.3	90	13.0	80	12.2
	50-59歳	57	7.4	51	7.8	49	7.1	39	6.0
	60歳以上	22	2.9	25	3.8	34	4.9	30	4.6
	合計	320	41.6	282	43.0	290	42.0	268	41.0
女性	20歳未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	20-29歳	109	14.2	89	13.6	95	13.7	84	12.8
	30-39歳	172	22.4	148	22.6	148	21.4	159	24.3
	40-49歳	124	16.1	90	13.7	113	16.4	97	14.8
	50-59歳	37	4.8	42	6.4	36	5.2	42	6.4
	60歳以上	7	0.9	5	0.8	9	1.3	4	0.6
	合計	449	58.4	374	57.0	401	58.0	386	59.0
合計		769	100	656	100	691	100	654	100

このレポートの関するお問合せはアダムコミュニケーション調査開発部へお願い致します。